

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292300017		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホームあんしん勝浦上植野		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和4年2月25日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園風景に囲まれた環境の中、住み慣れた地域にて共に支え合い、四季を感じる思い出作りに努めております。</li> <li>・身体面や精神面の低下がみられる方が増えてきましたが少しでも張り合いを以って生活して頂きたいです。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園と山林に囲まれ少し離れた所に海があり、環境的にも静かで自然豊かであり、「笑顔とぬくもりのある穏やかな毎日を送れる」にふさわしい場所である。昨年、一昨年と自然災害に備え、自家発電装置や非常用エアコンの設置等も行われ非常用の食糧・水、備品も完備されており、安心で安全な施設というイメージが完成しつつある。事業所内は、何でも言える風通しの良い組織となっており、運営面での改善に前向きである。ただ、国内でのコロナ感染拡大があり自由な面会や外出など、行動面での制限が有り利用者への支援では何かと苦労があるが、理念に沿った運営に力を注いでおられ、利用者、そのご家族には常に「あんしん」をお届けしている施設であります。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念を朝礼(申し送り)時、職員一同再確認し、意識して業務に当たっている。又施設に掲示し個人に対して尊敬をもって接する事を意識するよう心掛けています。	事務所、通路の壁面、リビングルームに理念を掲示し、職員が意識できるようにしている。月に何回かは朝礼や申し送り時に職員で確認するように勤めている。職員が新しく入ったときにも内容を説明している。言葉遣いなどで職員の対応が不適切な場合は理念の意味を再説明し、より良いケアをするように指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為現在は、残念ながら地域との交流も行われてはいない。毎月、地区の区長さんが広報誌を届けがてら、何か困った事はないですか？と声を掛けてくれます。	コロナ禍で地域イベントも無く地域での交流が少ない状況にある。自治会に加入しており、区長さんが広報誌を届けに訪問してくれる。施設前は交通量が増加し騒音に悩まされていることや、街灯が少なく困っていることなど、区長さんは真剣に受け止め良き相談の窓口になってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の方々に参加して頂き、活動内容をお知らせする。利用者様も会議に参加し、交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は行われていない。施設活動として関係先に書面での報告をしている。	運営推進会議はコロナ感染防止の観点から、外部者を入れず内部職員のみで2ヵ月毎に行っている。入居状況、新規入居者、コロナ状況などの報告と意見交換を行っている。この報告を手紙と一緒に市役所と区長さんに報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢者支援課担当者に相談に行き、意見を伺っている。日頃から市役所各課より親切な対応をいただいています。	保険の変更や空室状況を市役所に相談、報告を行っている。内部開催している運営推進会議の内容を文書で報告をしている。コロナ予防に関しては市役所職員の訪問が多くあり、話をする機会も増加した。ワクチンの追加接種に関しては市役所職員も来所して他市よりも早い段階での接種がなされた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する会議(3ヶ月に1回)を行い、声かけ・見守りの強化をし、身体拘束の無い支援を実践している。施設前の道路の交通量が多い為玄関の施錠はしていません。身体拘束の研修を行い取り組んでいます。	研修は6ヵ月に1回、関係資料を使って行っている。3ヶ月に一回、身体拘束廃止委員会を実施し、管理者は資料での解説や日常の具体的な行為が身体拘束に該当していないかの説明をしている。職員の声が強くて大きいと、利用者は威嚇されているように受け取るので、日常では声の大きさにも注意を払っている。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を開き職員全員研修内容を共有する。また、資料等を活用し、職員に教育するとともに虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部会議を行い、成年後見制度を十分理解し、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・及び手紙にて近況を報告し、意見交換要望を聞き定期的に会議を設けている。	家族からの意見や要望は職員に口頭で伝え、申送りノートにも対応を含め細かく記入して全員が共有している。利用者から欲しいものの要望が出れば家族に伺いを立てて了解を得て応えるようにしている。今までは家族が消耗品などを持ち込んでいたが、コロナ禍の対応として事業所が購入して預かることもしている。	マンパワー不足ではあるが、あんしん便りの復活が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や申し送りノートを多用しています。新しい職員が半数を占めその場での口頭での確認が多くなっています。やり易く分かり易く職員間で意見を聞きながら改善すべき所は実施してます。	管理者が「なんでも言ってください」と常々口にしてるので職員は気軽に発言出来ている。意見や提案が出れば、アドバイスと一緒に考えたり、他を加えて検討したりする。事業所内にスキルの高いベテラン職員がいて、管理者及び他の職員に積極的な指導や情報を発信してくれ、運営改善に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修に積極的に参加している。研修資料をまとめ職員同士共有し、職務に活かしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を感じられるように寄り添い、コミュニケーションを計り、希望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為現在は面会を制限している。どうしてもというご家族には玄関入り口において飛沫感染シートを設置したり利用者居室窓を利用しガラス越しの面会は出来る様にしている。インターフォンを使用して試みている。	親戚の人が電話で状況を訊ねてくることもあるが、コロナ感染防止のため玄関先、窓ガラス越し、人数、時間などの面会制限があり、自由な訪問は難しい状況である。国内感染者減少時には休憩室を使った面会を許可した。毎月の車で受診する経路では海を見たり、実家の場所などの街中の会話をしたりする。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を見ながら配慮し、レクリエーションを通じて関わり合いを持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。家族の方に手紙・電話などで関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように傾聴に努め本人の意向をくみ取る様に努めている。	入所時点では利用者本人の思いや意向を聞き取り、確認することは困難であるため、家族の意向を優先してしまうことが多い。入所後のコミュニケーションから徐々に本人の気持ちを確認していくが、帰宅願望がなかなか消えず生活に慣れるのに半年くらいかかる利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勤めて様子を見る等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録や気付きを基に定期的な会議にて検討し、家族、本人の要望を取り入れ介護計画を作成している。週1回ケアマネジャーが事業所を訪問している。職員各々の意見や情報を取り入れ介護計画を作成している。	ケアプランはあらゆる方面からの情報を参考にしながら最適なものに仕上げていくが、初期の計画についてはそれが中々難しい。通常は3カ月毎に見直しを行うが、初期においては、変化への気付きが有ればその都度検討を加えた見直しを行い、落ち着いて来た後には3カ月サイクルの対応を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にてゴミを拾い地域の美化に貢献出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。家族や本人の希望を大切に必要とする医療機関への受診にも対応している。ご家族に相談し病院へ受診が困難になった方に往診を依頼出来る医療機関を探した。月1回の往診だが丁寧な対応に満足されている。	提携医は月1回の通院支援を行っている。利用者家族が希望する医療機関についての対応も行っている。通院が困難な場合には往診が可能な医療機関に依頼している利用者もいて、月1回の往診で対応できており、家族から大変喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づきを個別記録やノートに記入し、看護師の訪問時に相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密に取り、入退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化、終末期における意向の確認は行っている。新しい職員に対応出来るような体制を整えたい。	重度化、終末期の対応については入所時に確認しており、対応方法については基本的には決まっている。しかし、新しい職員が対応する場合などは難しい所もあり、それなりに指導が必要となる。利用者の状況により多少なりともケアの内容は変わってくることもあり、申し送りノートに都度記入し、引継ぎを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受け、会議にて緊急時マニュアルを把握し、緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間と想定を変え避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。反復練習にて任務の再確認をしている。昨年は年末に避難訓練を消防署職員立ち合いのもと実施しました。今年度も予定しています。	今年度も年2回の避難訓練を行い、1回は消防職員の方々にも参加して頂いた。前任の管理者の頃から非常用の水・食料等の備蓄体制が継続している。特にここ数年異常気象が続いており、いつ何が起きるか分からないので、職員の意識向上が重要と捉え、それが高まるような活動が望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりの情報を共有し、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉使い、声掛けを徹底している。利用者の皆様は人生の大先輩であり尊敬の念以って接する事よう職員全員に促しています。	利用者一人ひとりの情報(生涯歴、家族構成、好み等)を職員間で共有して、尊厳や権利を守るための徹底に努めている。特に新しく入所される方の情報等も、ケアマネから詳細を伝承してもらうように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに気配りを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握できるように努めている。時には気分を変えウッドデッキにて、ランチを楽しんでいる。また、その方の出来る範囲でお手伝いをお願いしている。食器を洗っていただいたり、日課にして手伝っていただいています。野菜を刻んだり主婦に戻ってます。	食材は外部業者より調達し、調理は職員が行っている。コロナ禍で外食は出来ないが、気分転換にデッキでランチ会を行ったりしてストレスを解消して頂いている。利用者のお手伝いは介護度の低い利用者をお願いしており、強制はしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医院の訪問診療を受けている。毎食後、口腔ケアを促し声掛け見守りし対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの日々の排泄パターンを把握し、時間にてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促しオムツの使用を少なくするよう日々努めています。	利用者8名の内、5名は完全自立で、2名は日中リハビリ・夜間オムツの使用となっており、かなり良い方向に進んでいるようだ。自立への道はトイレでの排泄が基本であることから、時間を見ながら根気よくトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、医師及び看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間はある程度決まりがあるが、天候気温を配慮し、その時の利用者の状況で対応している。利用者様の体調を考慮し実施している。又入浴嫌いな利用者も複数いるので声掛けや雰囲気づくり等工夫して心地よく入浴出来るよう努めている。	冬場は週2回、夏場は週3回の入浴を勧めているが、あくまでも利用者の希望に沿った対応を行っている。常に2～3人は嫌がる方がいるが、タイミングを測りながら勧めている。職員は女性ばかりなので2名の男性利用者も抵抗なく介助を受けて頂いている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し、室温調整を行い希望者に湯たんぽを貸出し、衣類・布団の天日干しにより安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。服薬管理ノートを作成し、職員全員共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物畳み等をお願いしている。歌や体操、外出等で一人ひとりにあった気分転換を心掛けている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はなかなか難しい状況ではあるが施設の周りの散歩や、極少人数での外出は少ないが行っている。家族が受診に同行される場合は人出の多い場所や長時間は控えるようお願いしている。コロナ前の状態に戻れるよう切に願っている家族もいる。	コロナ禍で外に出られずストレスを感じている利用者もいる。そんな中、出来るだけ人との接触を避けながら一部の利用者とは勝浦の景勝地や初詣に車を出かけて、楽しんでもらっている。また、室内ではおもちゃを手作りしたり、輪になってのサッカーやバレー、毎日のタオル体操をしたりして、可能な限りストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりが出来るように支援している。 困難な方には、職員が利用者の意志を伝えるなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は御自分の好きなことをして過ごされる方が多くリビングルームでは音楽を聴いたりパズルを解いたりしている。音楽を聞かれる方は周囲を気遣いヘッドホンを使用している。	リビングルームでは周りに迷惑にならない様にそれぞれ自分の好きなことをして過ごしている。皆が集まる場所なので出来るだけ季節感の演出のための飾りつけや、整理整頓、毎日の消毒等を職員は心掛けている。今年度新たな職員でレクリエーションが得意な方がいて、今後は力を入れて行く。	今年度の利用者家族アンケートで「生活臭が気になる」というコメントが有りましたが、既に意識されているようですが、早急な対策を講じられることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室対応にてプライベートが保たれている。多くの利用者が過ごすリビングにはゆったりとくつろげる様ソファを設置し、写真や手作りポスターを飾り、利用者同士会話が弾む様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物は持ち込みは出来る。出来る方は毎日ご自分でベットメイクして常に綺麗にされて居心地よく使われている。	居室については、担当職員が常に室内の整理整頓、掃除等を行い居心地の良い環境作りに努めている。自分で掃除機を持って掃除する利用者もあり、介助が必要な時にはお手伝いをする。家具等の持ち込みについては特に制限はしておらず、落ち着いて生活して頂ける様馴染みの物を持ち込むことを勧めいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮した家具やソファの配置をし、動線をスムーズに出来るだけ自立した生活を支援している。		